

JAEF REPORT

令和4年7月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

【目次】

- ◆ 第27回理事会、第11回評議員会を実施
- ◆ 令和4年度自動車技術教育用教材提供へ81校から応募
- ◆ 39都道府県の研修会(179件)に講師を派遣

- ◆ 令和4年度JAEF研修会の参加者を募集
- ◆ 動画学習サイト「早わかりクルマ塾」に3本のコンテンツ掲載

第27回理事会、第11回評議員会を実施

5月18日に第27回理事会が芝パークホテルにて開催され、令和3年度事業報告・決算及び第11回定時評議員会の開催内容等が承認された。それを受け、6月13日に第11回定時評議員会が開催され、令和3年度事業報告・決算が承認された。なお、定時評議員会は、新型コロナウイルス禍が続いたことで3年ぶりの会場開催（一部評議員はリモート参加）となった。

	計画通り実施	中止・縮小	形態変更して実施
技術教育	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教材提供(15府県102校) ✓ PIUS特別講習 ✓ EG分組動画作成 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教材贈呈式、教育懇談会【3県のみ実施】 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ インターンシップ等相談窓口一覧の作成、提供 ✓ 教材提供校へのアンケート実施
研修	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 講師派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ JAEF研修会【2回⇒1回】 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ JAEF研修会講演の動画配信 ✓ オンライン講演の本格実施
調査・普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 動画サイト「早わかり！クルマ塾」のコンテンツ配信 ✓ 「公共」用副教材改定 ✓ 国内調査 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 海外調査 	

▲令和3年度事業報告の概要

令和3年度事業のポイントとして、新型コロナウイルス感染の影響が残ったものの、令和2年度に比べ大きく回復したこと、新規に取り組んだ活動（PIUS特別講習、動画コンテンツ配信等）は計画通り実施でき、高等学校支援の一層の強化が図れたことなどが報告された。



▲第27回理事会の様子



▲第11回評議員会の様子

…5～6月

財団運営

定時評議員会の終了後、評議員、理事、監事に限定した懇親会が開催された。冒頭、内山田理事長より「財団の活動そのものも、コロナ禍を逆に利用して、リモート講習や動画教材の作成に新たに取り組んできた。今後も厳しい環境は続くが、財団に与えられた使命を果たしてまいりたい」と、常に変革に取り組んでいく考え方が示された。また、乾杯のご発声をなされた福田建昌評議員（全国工業高等学校長協会理事長、全国自動車教育研究会会長）より「財団の教材により生徒の理解が深まる。これからも引き続き活用させてもらいたい」とのお言葉をいただいた。



▲評議員会後の懇親会の様子

自動車業界を取り巻く環境は厳しいものがありますが、このような時だからこそ、高等学校における自動車教育、交通教育支援にも様々な挑戦をしていきたいと考えています。皆様方には、財団活動への一層のご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

なお、評議員の一部選任が行われ、以下の4名が新たに評議員に就任いただくことになりました。

石橋 正人氏
 (公財)自動車製造物責任相談センター 常務理事・事務局長
 齋藤 滋夫氏 損害保険ジャパン(株) 副社長執行役員
 荒川 裕司氏 あいおいニッセイ同和損害保険(株) 執行役員
 葛蒲田清孝氏 マツダ(株) 代表取締役会長

INFORMATION

7～9月予定

- 22都道府県の研修会(36件)に講師を派遣予定 7～9月
- 審査委員会開催、令和4年度教材提供校を決定 8月上旬
- JAEF研修会を開催 7～8月
- 自動車技術教育イベントを支援 8月

令和4年度自動車技術教育用教材提供へ81校から応募

…6月

技術教育

財団は、技術教育支援事業の一環として、今年度対象の18県（以下参照）で自動車技術教育を実施している272校へ6月初めに応募要項を送付した。同月末を応募締切としており、6/29現在で81校から応募があった（応募率は29.8%、同地域で公募を行った3年前と比べ15校減少）。

最終的な提供校および支援内容は、8月1日に開催する審査委員会（栗田博康委員長）で、厳正な審査・選考により決定する予定である。

また、秋には提供県ごとに贈呈式・教育懇談会を開催予定であり、対象となる自販連各県支部（自動車教育推進協議会）にはご協力のほど、よろしくお願いいたします。

< 応募内容詳細（第一希望メニュー） >

教材区分別の構成比は、視聴覚教材27.2%、初級教材54.3%、中級教材6.2%、上級教材が12.3%であった。

メニュー別では、分解組立用汎用エンジンの前年度同様1位で24校（全体の29.6%）、2位は分解組立用電子制御エンジンで10校（同12.3%）応募があった。

なお今年度の公募に当たり、自動車教育用教材メニューで毎年最も応募校数が多い「NO.14分解組立用エンジン（汎用126cc）」において、先生方より要望が多かった解説動画（「分解編」「組立編」の2本）を作成するとともに、使用する付属工具の見直しを行った。分解組立実習が初めてといった先生にもイメージしやすいよう作業手順、使用工具、注意事項を盛り込み、組立・分解の作業前に本ビデオを視聴することで、生徒の理解も深まり、効率的・効果的な学習を可能とした。この効果もあり、当教材への応募が24校に増加した（前回18校）。



▲分解組立用エンジン用 解説ビデオより

【令和4年度 公募地域（18県272校）及び応募校数・提供校数】（6/29現在）

対象県	秋田	山形	群馬	山梨	新潟	長野	徳島	香川	愛媛	高知
対象校数	12	20	16	10	20	17	6	9	16	9
応募校数	4	6	6	4	7	3	2	4	6	2
対象県	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	合計	
対象校数	33	10	15	16	14	14	23	12	272	
応募校数	9	3	2	6	3	3	7	4	81	

【令和4年度 提供教材メニュー】

1. DVD教材（自動車の基礎・電気）	2. DVD&デジタルビデオ「自動車メカニズム」	3. CD教材①（ハイブリッド自動車と充電装置）	4. CD教材②（自動車の基礎とエンジンの作動）	5. CD教材③（動力伝達・駆動・制御・走行装置の作動）	6. モーター基礎実験セット（自動車の電気・電子技術）
7. 動く掛図教材	8. 4サイクルガソリンエンジン説明模型	9. ハイブリッドシステム説明模型	10. 駆動用ギヤ学習セット	11. 模型で学ぶセンサー技術（自動走行）	12. サスペンション模型
13. 四輪ホイールアライメント教材	14. 分解組立用エンジン（汎用126cc）	15. 分解組立用電子制御エンジン（660cc or 1300cc）	16. 実習用工具セット	17. 実習用工具トルクレンチ	18. 急速充電器
19. 低床型手動ジャッキ	20. 簡易型エンジンスタンド	21. トレーニングサーキット	22. 燃料電池実験キット	23. 燃料電池システム（エコラン大会用）	24. ビデオスコープ
25. 灯火回路実習装置	26. 実車（中古車）	27. エンジン実習装置	28. スキャンツール（外部故障診断装置）		

39都道府県の研修会(179件)に講師を派遣

・・・4～6月

研修

令和4年度4～6月の講師派遣実績は、開催件数179件（前年同期差+7件）、参加者54,761名（同▲4,524名）となった。コロナ禍の影響を極小化すべく、令和3年度より「交通安全」「環境・交通技術」分野にて本格的に展開したオンライン形式の研修会の併用、利用促進が奏功し、キャンセルを15件（同▲37件）と大幅に抑制することができた。

全179件の分野別内訳は以下の通り。

分野	件数	対象
1) 交通安全	173	社会科系及び生徒指導担当の先生並びに生徒
2) 環境・交通技術	1	
3) 自動車技術	5	主に工業系の生徒

尚、研修会メニュー別実績件数は以下の通り。

1)交通安全：計173件

ドライバー・自転車・歩行者から見た交通安全	124
自転車を取り巻くリスクとその責任	27
夜間の交通安全対策	18
交通事故を起こして問われる責任	4

当分野でのオンライン研修の高評価率（※）は92%で、全体平均と同水準であった。高評価を得た研修会では、対面同様の研修効果が得られるよう、講師の方々より以下事項の工夫にご尽力いただいた。

- ①事前に各校と打ち合わせを行い、学校側のニーズを把握
- ②生徒の関心を高めるべく、予め撮影した登校風景や学校周辺の危険箇所を提示しながら、クイズ等を用いた参加型の研修会を展開
- ③生徒が主体的に考え、自身のためだけでなく他人を守る意識が芽生えるよう促進

※高評価率：実施報告書で5段階評価中「大変良かった」「良かった」の合計



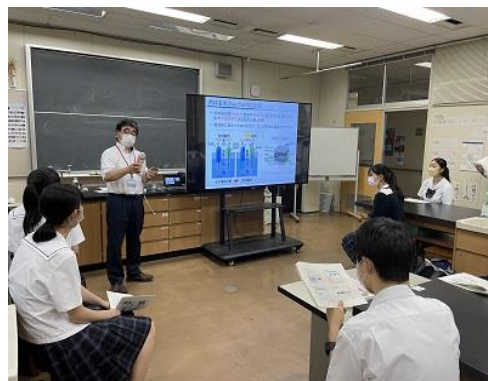
▲長野県飯田高等学校での講師派遣（交通安全）

2) 環境・交通技術：1件

地球温暖化防止と自動車技術

1

当分野では、申込校の希望でSDGsに関する授業の一環として同テーマにて開催。



▲東京都立晴海総合高等学校での講師派遣（環境・交通技術）

3) 自動車技術：計5件

最新技術：生徒対象	4
内) 電動車関連メニュー	4
整備技術：教員対象	1

当分野では、整備の現場で実際に使用しているスキャンツールを用いた故障診断のデモンストレーション、現車およびシミュレーターを使用した衝突被害軽減ブレーキの体感、最新の電動車両の見学などを通じ、先進技術に直接触れることができ、高い評価を得た。講師の方から自動車整備業務のやりがいや魅力に関する積極的なアピールもあり、参加した生徒が自動車業界に対して興味関心を高める大変良い機会となった。



▲神奈川県立向の岡工業高等学校での講師派遣（自動車技術）

講師については、全179件のうち、178件を地元の自動車教育推進協議会メンバーにご担当いただいた。

講師派遣にご協力いただいた関係団体・企業の皆様には紙面をお借りして深謝申し上げます。

令和4年度JAEF研修会の参加者を募集

・・・5月～

研修

財団は令和4年度JAEF研修会の募集について、全国の高等学校約5,950校及び当財団メールマガジンに登録された先生方への案内、SNSを用いた情報発信を行った。本年度は下表の通り計4回の開催を予定している。

第3回は、気候変動に関する授業の話題づくりや交通安全指導に資することを目的とした講演会を計画。より多くの先生に参加いただけるよう、後日動画にて視聴可能なコースも募集する。

(9月末までにURLならびに視聴用のIDとパスワードを申込者宛送付予定)。



▲令和3年度 第1回JAEF研修会の様子

JAEF研修会とは、「交通」「環境」「交通安全」などをテーマとして、全国の高校教諭を対象に実施する財団主催の研修会である。平成4年のスタート以来、関係団体・企業のご協力により、各界の専門家による講演会と施設見学や体験実習などをセットにして行い、参加した先生方から高い評価を得ている。

今年度も文部科学省、および全国高等学校長協会、全国工業高等学校長協会、日本私立中学高等学校連合会、全国総合学科高等学校長協会、全国公民科・社会科教育研究会の後援・協賛を得ており、財団は全国の高等学校の先生方に積極的な参加を呼びかけている。

【令和4年度JAEF研修会開催計画】

回	開催日	日程・会場	講演・講師	関連施設見学・体験実習	参加人数
1	7/28(木)	三菱自動車工業 岡崎製作所	【講演】「持続可能な社会の実現に向けた三菱自動車の取り組み・PHEVについて」 【講師】三菱自動車工業株式会社 総務渉外部 兼 軽EV推進室 担当部長 大石 博基 氏	工場及び オートギャラリー見学	40
2	8/2(火)	トヨタ交通安全センター モビリティ	【講演】「車中泊避難プログラム」 【講師】トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部 共生社会推進室 主任 高澤 幸子 氏・鴨田 みずほ 氏 カーネル株式会社 代表取締役 大橋 保之 氏	安全運転実習及び 車中泊避難体験	32
3	8/9(火)	日本自動車会館	【講演】「持続可能な未来に向け ～自動車産業界が果たすべき気候変動対策」 【講師】本田技研工業株式会社 環境企画部 技術渉外課 チーフエンジニア 山本 一哉 氏 【講演】「自転車そして新たなモビリティの快適な移動手段と安全対策」 【講師】NPO法人 自転車活用推進研究会 理事長 小林 成基 氏		40
	9月		上記2講演の動画配信		上限なし

*上表の3回に加え、日産自動車 栃木工場での「日産インテリジェントファクトリー」をテーマとした研修会開催を調整中

動画学習サイト「早わかり クルマ塾」に3本のコンテンツ掲載

・・・5～6月

普及啓発

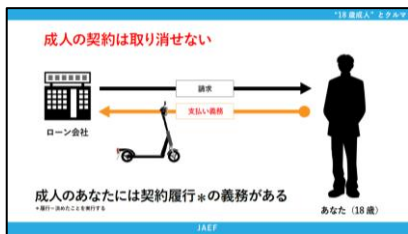
財団は動画学習サイト「早わかり！クルマ塾」にて、5、6月に計3本のコンテンツを財団ホームページに掲載した。

同サイト内で工業系の「自動車工学」や地歴公民科、総合学習の授業に役立つ情報を紹介するコーナー「クルマのまなび舎」の今年度のテーマ『消費者として考える』で1本、そして先生方が授業で活用できる、もしくは生徒が関心を抱けるような話題について取り上げる「クルマ何でも情報館」の『最新のクルマ・交通情報』コーナーの2本を公開した（以下動画タイトルに続くくは、掲載日）。

【クルマのまなび舎】

- 『消費者としての高校生と交通社会 〔1〕 “18歳成人”と交通社会 ～権利と責任のあり方～』 <6/29>

今年4月に成人年齢が18歳に引き下げられたことに伴い、実際の交通社会におけるケースをもとに、“18歳成人”として知っておくべき権利と責任に関する理解を促進。



【クルマ何でも情報館】

- 『日本におけるMaaS実現への課題とは？【前編】 MaaSとは：海外での先行事例』<5/27>

社会実装に向けた動きが国内各地で活発なMaaSに関する当財団の調査報告動画。当前編でMaaSの導入目的・基本的な仕組みの他、世界で初めてMaaSを導入したフィンランド ヘルシンキの事例について、過去の当財団による現地調査で判明した実状も交え紹介。



- 『日本におけるMaaS実現への課題とは？【後編】 日本における取り組み状況と課題』<6/7>

先述の後編として、群馬県前橋市独自の仕組み“MaeMaaS”の取材等を踏まえ、日本でのMaaS普及への課題を深掘。

